

# 社会資本総合整備計画

わごうちく  
和合地区都市再生整備計画(第2回変更)

やまがたけん あさひまち  
山形県 朝日町

平成27年1月

# 都市再生整備計画(第2回変更)

わごう  
和合地区

やまがたけん あさひまち  
山形県 朝日町

平成27年1月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山形県	市町村名	朝日町	地区名	和合地区	面積	303 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度				

### 目標

- 大目標: 地域の魅力を継承し、みんなが誇りをもち、協力し合えるまちづくりを行う。
- 目標1: 地域の人々が繋がりを、支え合えるコミュニティの拡大
- 目標2: 互いに思いやり安全・安心に暮らせる生活環境の向上
- 目標3: 地域の自然や歴史的資源を活かし、地域の魅力を高め、地域間交流の拡大を図る

### 目

平成26年12月  
 まちづくりの経緯及び現況  
 ・本町は、山形県の中央部に位置し、磐梯朝日国立公園の主峰・大朝日岳の東縁山麓地域に位置しており、最上川が町域の南北を約21kmにわたって蛇行北流し、国立公園をはじめとする原生林野が町土の76%ほどを占める自然豊かな町である。最上川の両岸に沿った河岸段丘は、特産のりんごをはじめとする果樹・作物の栽培に適した肥沃な土地である。気候は内陸性気候で、夏は蒸し暑い日が多く、冬は寒い日の多い積雪寒冷地帯で、気温比較差や寒暖差が大きく、稲作や高品質な果実の栽培に好適とされ、四季をはっきりと実感できる気象環境となっている。町の面積は196.73km<sup>2</sup>で、東西に25km、南北に21kmのやや東西に長い地形となっている。南西部は東北のアルプスといわれる朝日連峰の大朝日岳(1,871m)や小朝日岳(1,648m)などの朝日連峰に、南東部は白鷹山地に囲まれており、ブナ原生林などの豊かな自然資源に恵まれている。  
 ・町の人口は、昭和30年の16,615人をピークにその後は減少を続けており、平成22年には7,856人(国勢調査)となり、55年の間に8,759人、52.7%の大幅な減少となっている。本町の高齢者化は著しく進み、平成24年4月時点の65歳以上の高齢者は2,776人、総人口の35.3%で、県内で2位の高い率を示している。  
 ・当地区は、町の北東に位置し、人口677人(平成24年4月時点)、世帯数180戸(平成24年4月時点)の地域である。和合という名が示すように5つの集落から成り立っており、これまでそれぞれの地域が互いに認め合い、結びつくことによって和合の歴史が削られてきた。りんごの名産地としても知られており、無袋ふじ発祥の地として語り継がれ、町の果樹産業への影響も極めて大きいものとなっている。  
 【まちづくりの経緯】  
 少子高齢化、経済の低迷など社会情勢が変化する状況の中で、和合地区に暮らす人たちの心のよりどころでもあった『和合小学校』の閉校の話が持ち上がった。それを機に地域の中に危機感が生まれ、改めて和合地域の現状や課題と向き合い、将来のあるべき姿を考えようという声が生民の中から挙がるようになった。  
 平成17年には、地域の目標を持ち、地域の計画を自分たちで作ろうという思いから、『みんなで考えよう地域の未来「2010年和合夢未来構想」づくりワークショップ』が開催され、住民が主体となった地域づくりへの第一歩が始まった。翌年平成18年には、『和合小学校の未来を考えるワークショップ』を開催し、地域の現状・課題の把握や住民の思いを具体的提案としてまとめ、地域の未来イメージの構築を行っている。具体的提案の中では、「今すぐできるもの、2~3年でできるもの、時間をかけて行うもの」、「自分たちでできること、行政と一緒に取り組むもの」など将来に向けた具体的な取り組みなどが話し合われ、これらを基に平成19年11月に『和合地域づくり計画』としてまとめられた。現在においても計画の実現に向けて継続したまちづくりへの取組みが行われており、地域のまちづくりへの期待と熱意の高まりがある。

### 課題

- <コミュニティ形成のための環境整備>  
 ・地域の人々の心のよりどころである『和合小学校』が閉校となったことで、地域住民たちのコミュニティ形成に影響を与え、地域の繋がりが弱くなっていくことが懸念されている。地域の繋がりは、地域を活性化させるだけでなく、次の世代へと継承されていくことで、地域力を向上させ、自立した地域づくりに繋がることから、地域のコミュニティ活動の環境を整えることが必要である。
- <安全・安心の生活環境の確保>  
 ・集落内の道路や地域の連絡路には、幅員の狭い所や歩道の必要な所があるため、早期に誰もが安全・安心に利用できる生活環境の確保が求められている。また降雪地域であるため、集落内道路について、冬季間に安全に通行できる車道や歩道の確保が必要である。
- <地域資源の活用と交流機会の創出>  
 ・当地区は、最上川右岸に広がる肥沃な河岸段丘にあり、変化に富む気候と気象条件に相まって日本一のりんご産地が形成されている。またパノラマ景観や最上川など様々な誇れる自然などがある。これらの地域資源はまだ多くのポテンシャルを持っており、この地域資源を活用しながら来訪者や地域住民との交流機会を創出することが今後の地域の活性化に繋がる。

### 将来ビジョン(中長期)

第5次朝日町総合発展計画において、目標及び2つの理念の基に計画を実現する3つの柱の一つとして『地域力の向上』を掲げている。その中の基本計画『みんなが主役で愛する地域をつくるプロジェクト』において地域づくり計画が挙げられている。和合地区では、平成17年からワークショップを開催し地域住民による継続したまちづくり活動を行っており、平成19年に『和合地域づくり計画』を作成し将来に向けた提案を行っている。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
まちづくり・コミュニティ活動開催数	(回/年)	地域で行われる年間のまちづくり・コミュニティ活動の開催数	地域のコミュニティの拡大に向けて年間のまちづくり・コミュニティ活動回数の増加を見込む	149	H23	220	H28
住民満足度	%	地域の生活環境等についての住民満足度	生活環境等の向上に向けて、住民アンケートの満足度の増加を見込む	40.1	H24	45.0	H29
イベント・地域づくり活動参加者数	(人/年)	地区内で開催される年間のイベント・地域づくり活動参加者数	地域間交流の拡大を表すものとして、年間のイベント・地域づくり活動参加者数の増加を見込む	1,200	H23	2,030	H28

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>◆整備方針1:地域を繋げるコミュニティの活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供からお年寄りまで、地域内の新たな交流拠点となる地域交流センターの整備を行う。</li> <li>・新たな交流拠点周辺のアクセシビリティの向上を図る。</li> <li>・コミュニティを形成し安心して暮らせる環境を整備する。</li> </ul>	<p>(基幹事業/高次都市施設)地域交流センター            (基幹事業/道路)町道沼向線            (基幹事業/道路)町道沼向・大隅線            (関連事業)老人福祉施設整備</p>
<p>◆整備方針2:安全・安心の生活環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季間の車道、歩道空間の安全性の向上を図る。</li> <li>・災害時に集落内の安全性を高めるための地域防災施設の整備を行う。</li> <li>・集落の生活幹線道路について安全で良好な交通空間の確保を図る。</li> <li>・総合交流拠点施設へのアクセシビリティ及び安全性の向上を図る。</li> </ul>	<p>(基幹事業/道路)町道合栗木沢線(歩道拡幅)            (提案事業/地域創造支援事業)防災拠点施設整備            (基幹事業/道路)町道合栗木沢線(側溝整備)            (提案事業/地域創造支援事業)国道287号改築(右折レーンの設置)</p>
<p>◆整備方針3:魅力ある地域資源の活用と地域間交流の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の自然や歴史的資源、産業を活かしたイベントの開催等を住民組織が主体となって行い、世代間、地域間の交流拡大を図る。</li> <li>・豊かな自然、パノラマ景観を活かし、地域住民や来訪者の憩いの場となる展望広場の整備を行う。</li> <li>・地域の情報発信と区域内の回遊性向上のための情報板の設置を行う。</li> <li>・地域住民の憩い・交流の場所となる広場の整備を行う。</li> <li>・地域の特産品をアピールするシンボルとなるモニュメントを設置する。</li> </ul>	<p>(提案事業/まちづくり活動推進事業)住民組織の育成事業            (基幹事業/地域生活基盤施設)展望広場整備            (基幹事業/地域生活基盤施設)情報板整備            (提案事業/地域創造支援事業)アクセス路整備            (基幹事業/地域生活基盤施設)交流広場整備            (基幹事業/高質空間形成施設)モニュメント</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民による継続したまちづくり活動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・和合小学校の閉校を機に、自分たちでこの地域を何とかしようという思いから地域住民が中心となり、まちづくり活動が行われている。平成17年に『みんなで考えよう地域の未来「2010年和合夢未来構想」づくりワークショップ』が開催され、和合地区の現状と課題の整理を行い今後のまちづくりへの提案が作成された。平成18年に『和合小学校の未来を考えるワークショップ』が開催され、閉校となる和合小学校について意見を出し合い提案を行っている。平成19年には、これまでの提案の実現に向け、地域の現状と課題を把握し、将来の提案をまとめた『和合地域づくり計画』が作成されており、継続したまちづくり活動の実施による地域住民の熱意と気運の高まりが感じられる。                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業期間内や事業完了後において、地元まちづくり組織である「和合連合区・和合の未来を創る会」を中心とした、事業の企画・実施・評価等の継続したまちづくり活動に努める。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○住民参画の事業実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流センター等の事業について計画段階から住民参加型のワークショップなどを開催し、住民の意見を反映した計画を行う。その際、行政と地元まちづくり組織が協働・連携し円滑な事業実施を図る。</li> </ul> </li> <li>○住民と行政との協働による地域振興プロジェクトが始動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの地域の取組みとまちづくり活動との協調・連携による地域づくりを目指して、平成24年6月に「和合振興プロジェクト」を立ち上げた。目的は、地域づくり計画の具体化と活動拠点施設の基本設計や活用プランを織り込んだ基本計画をまとめること。体制は、地元住民と町職員が一緒になって具体的な検討を行っている。</li> <li>・今の動きを止めないための環境づくりを都市再生整備計画に反映させる。</li> </ul> </li> </ul>	





わごうちく やまがたけんあさひまち  
和合地区(山形県朝日町) 整備方針概要図

目標	大目標:地域の魅力を継承し、みんなが誇りをもち、協力し合えるまちづくりを行う。	代表的な指標	まちづくり・コミュニティ活動開催数 (回/年)	149 (H23年度)	→	220 (H28年度)
	目標1:地域の人々が繋がり、支え合えるコミュニティの拡大		住民満足度 (%)	40.1 (H24年度)	→	45.0 (H29年度)
	目標2:互いに思いやり安全・安心に暮らせる生活環境の向上		イベント・地域づくり活動参加者数 (人/年)	1,200 (H23年度)	→	2,030 (H28年度)
	目標3:地域の自然や歴史的資源を活かし、地域の魅力を高め、地域間交流の拡大を図る					

